

評価作業の流れ

評価作業の流れ

密接関連施策群（案）の構成

- ① 令和6年能登半島地震等の災害経験から得られた知見に基づき「分類の視点」を設定
(分類の視点) I. 複合・二次災害への対応、II. 分散型の活用も含めた効果的なライフライン復旧、III. 過酷な環境下でのデジタル活用、
IV. 生活・生業の持続性確保、V. 自立と連携の強化
- ② ①の視点に基づき、密接関連施策群を構成（必要に応じて分類を細分化）

第10回推進会議で議論

第11回推進会議で議論

横断的検討項目ごとに設定した
「評価の視点」に基づき、分析・
評価を実施

災害外力・耐力の変化
への対応

社会状況の変化
への対応

- ⑥ 「密接関連施策群」ごとに推進方針・進捗状況を整理
 - 施策間連携や重点化の考え方
 - KPI・補足指標（定義、経年の値、分母の値、目標の考え方等）
- ⑦ 「評価の視点」に基づく整理・分析の結果を整理
- ⑧ 事例分析を通じて施策推進上の留意事項等を整理
- ⑨ 実施中期計画に向けた考え方（推進が特に必要な施策等）を整理

事業実施環境の変化
への対応

- 各災害対応フェーズにおける取組状況の
分析・評価
- ③ 過去の大規模自然災害に係る検証結果に
基づく対応状況を整理
 - 検証結果に記された「課題と対応」を整理
 - 検証結果に記された「対応」について、
取組の進捗状況を整理
(5か年加速化対策等との対応関係を整理)
 - 今後の対応の考え方を整理
(完了/継続/拡充等)
 - 必要に応じ新規施策を抽出、密接関連施策群
に追加
- ④ 住民意識の形成・民間企業の自発的取組
に係る事例分析
- 各分野の人材・資機材の動向の分析・評価
- ⑤ 建設業、物流等
- ⑤ 警察・消防・自衛隊・ボランティア等
医療、通信・電力・デジタル

第12回推進会議で議論

※ 前回意見の反映、KPI・補足指標の追加・修正、効果事例の分析等を行った上で、
「実施中期計画の策定方針（素案）」について議論